

抵抗する適当な構造と見られます。

鱗毛は表面から見ると恰も[ぐみ]の鱗片の様な形をして居ります之を縦斷すると圖の様になりましてaと云ふ部の細胞には空氣を保ち居りますが若し降雨があれば直に水分を吸収して之を貯へることが出来るのであります、丁度蘭などの氣根に貯水構造が発達して居ると同じことであります、其鱗片の下面中央部には柄の様な細胞がある、之れは原形質に満ちて居りて之を通過細胞と云て居り吸収した水分は此細胞を経て葉或は莖の内部に達するのである、則ち此鱗片は此植物に取りては他の植物の根毛に相當する作用をする極めて重要な植物であります、斯様な面白き植物であるが其生態に就てはSchimper氏が研究せられて報告をせられ或は他の學者の著書などにも必ず之を引用せられて居る。

今回本校に御寄贈下されましたものは赤星氏が七年間も丹精して培養せられたものだそうでした、亞鉛の針金の框に掛りて生長して居るもので恐く此植物が生きた儘日本に渡來したのは之が最初のものでありませう、本校の生徒は幸に此貴重なる標品を實見する事が出来ました、私は東京植物學會の例會の日にもこれを持参して行きて此生標品を見せました、茲に同氏に厚く御禮を申します、序に申して置くが此植物は俗に Spanish moss

或は Louisiana moss, Florida moss など、申して居り澤山ある所では之を乾燥して匏屑の代用として品物の詰物に使て居り或は水苔の様に使ふ事もあるそうです。

### 例會で感じた事ども

午後一時に開會少し用事があつて十五分遅れた部長平田先生の御話の半であつた講演について氣のついた事を云ふと講演者たる者がいやしくも彼の講演壇の上に立つた時にはもつと

◎謹嚴な態度でなければならぬ姿勢はいつも直立不動を保つと云ふ程にあつて欲しいと思ふ身振りや手眞似をするのはずつと訓れた人のする事であるつぎに

◎音聲明瞭でなければならぬ云ひかへれば満場の誰れにても聞えるやうに話さなければならぬ折角話をしても何が何やら分らぬやうでは聴くものは實に不快である生れつき講堂のやうな所で話をするのには不適當な音聲の持主ははじめから話をせぬ方がよいと思ふそれから話の

◎上手でない事は誰にも分つて居る下手なのが當然である何もそれをくくだ云ひ譯をする必要はない却つて片腹痛さを感じる云ひ譯をしたり冗談を云つたりすることは大家のする事で我々風情のなすべき事ではな



い殊に我々は女子である事を忘れてはならぬ要するに此の日の話振りは前半よりも後半のがよいしかし最後の「西洋では彼の毒瓦斯を軍事上にまで應用せられる程なのに我日本ではまだかゝる小な虫のため云々」は全く蛇足である。

◎講演中黑板上に圖をかきながら話される事について一言しやうと思ふあの方法は教壇に立つて生徒を教ふる時には有効で是非さうでなければならぬが此日のやうな性質の演説中ではどうもわづらはしさを感ぜさせられるあの場合は紙か小黑板かに準備して置くべきであると思ふしかしこれは絶対にかうしなければならぬとは云はぬ時と場合があるし又圖をかくにしても其方法よろしきをうれば決してさきのやうな感じは起さぬものである。

◎又本校の生徒あたり獨逸語もちつとは覺えて置く必要はないかカイゼルは此頃の一種の流行語であるカイゼルとは何か位の智識はなくてはならぬ。

◎今一つはやたらに拍手をする事であるいつの頃から始つたかは知らぬが拍手の数が多すぎる會の重みをそいでしまふ。

◎最後に岩川先生の御話を伺つてほんとうに蘇生つたやうな氣がした何と云ふ貴い御話であらう實に千金の

重さを感じたのであつた何時とはなしに心身が緊張してしまつた恰も旱天に慈雨一度至つたやうな感じがした此の頃の理科會に一段の光輝を御添へ下すつた事を感謝せずには居られなかつた。

## 雜 報

役員變動 大正三年四月以來乙部教授は二年間引續き理科部長として留任せられしが本年四月より平田教授繼いで部長となられたり。

會計掛は從來平島助教授を煩はしたるも本年四月より江澤駒路氏交代せられたり。

保井コノ氏歸朝 大正三年三月米國留學の途につかれたる保井コノ氏はシカゴ及びハーバードの大學にて研究に従事し居られしが去る六月二日無事歸朝せられたり。

## 自大正五年二月二十五日 會費領收報告 至同年六月十日

金六拾錢宛 (大正五年分)

横川 なを	青 山 秀	奈 良 そ う	榆 木 な つ
辻 村 みちよ	横 見 靜	山 寺 せ い	田 中 た ま
永 井 や ゑ	横 田 竹	栗 山 つ な	林 薫
鳥 取 ちかよ	山 本 り と	大 和 辰 野	板 東 て る ゑ